

2.5 自転車のルール・マナーの啓発

(1) 自転車の交通ルール・マナーに関する啓発

市民自らが安全で安心な交通社会を築くという意識の醸成を図るため、講習会等の啓発活動を実施しています。

表 北九州交通公園における自転車教室等の開催実績（R元）

	開催回数	参加人数
個人向け教室	49回	509人
団体向け教室	100回	7,135人
自転車運転免許講習会	9回	54人
合計	158回	7,698人

<自転車教室>



資料：北九州市安全・安心都市整備課

～～北九州交通公園～～



正しい交通ルールや交通に関する知識を子どもたちが楽しみながら身に付けられる公園です。園内には、北九州市立交通安全センターや自転車走行コースなど様々な施設を備え、専門の指導員が来園者に正しい交通ルールの指導を行っています。

<啓発活動>

- 交通安全運動における街頭啓発
 - ・春、夏、秋、年末の交通安全運動時には、街頭キャンペーンを実施。
- 自転車交通安全キャンペーン
 - ・公共交通施設やショッピングモールなどでチラシや啓発物を配布。
- 自転車交通ルール検定
 - ・「自転車安全利用五則」をまとめたテキスト編を学び、問題編を解く。
(対象：市立の中学2年生 約8,000人)
- 自転車安全利用のチラシ配布 (対象：新小学1年生約8,000人、新高校1年生約5,200人)
 - ・市内の新小学1年生及び新高校1年生へ自転車安全利用のチラシを配布。

(2) 駐輪ルールに関する啓発

主要な駅周辺を中心に、「駐輪指導員」を配置し、自転車利用者に対し、適切な駐輪に関する啓発や駐輪施設への誘導などを実施しています。

そのほか、街頭啓発や新高校1年生への放置自転車に関する啓発パンフレットの配布などを行っています。

<駐輪ルールの啓発>



資料：北九州市道路維持課

2.6 自転車の利用促進

自転車の利用促進に向け平成26年2月に、自転車に関する総合情報ウェブサイト「スマートサイクルライフ北九州」を開設しました。

市内のおすすめのサイクリングコースや自転車のルール・マナーをはじめとする自転車の利用に役立つ情報、サイクリストへのインタビューなどの自転車に関する楽しい情報を発信するとともに、フェイスブックを活用し、サイクリストの情報共有などと情報共有ができるサイトとなっています。



(例：自転車のルール・マナーの情報発信)



(例：おすすめサイクリングコース【門司港レトロコース】)



スマートサイクルライフ北九州

3. 北九州市の自転車に関する現状と課題

3.1 地域特性

(1) 地形

本市は九州の最北端に位置し、北部は関門海峡と響灘、東部は周防灘に囲まれ、市域の多くを山地が占めています。平地部は、紫川流域や日豊本線沿線、奥洞海湾周辺、臨海部および遠賀川流域に広がっており、こうした地域を中心に市街地が形成されています。

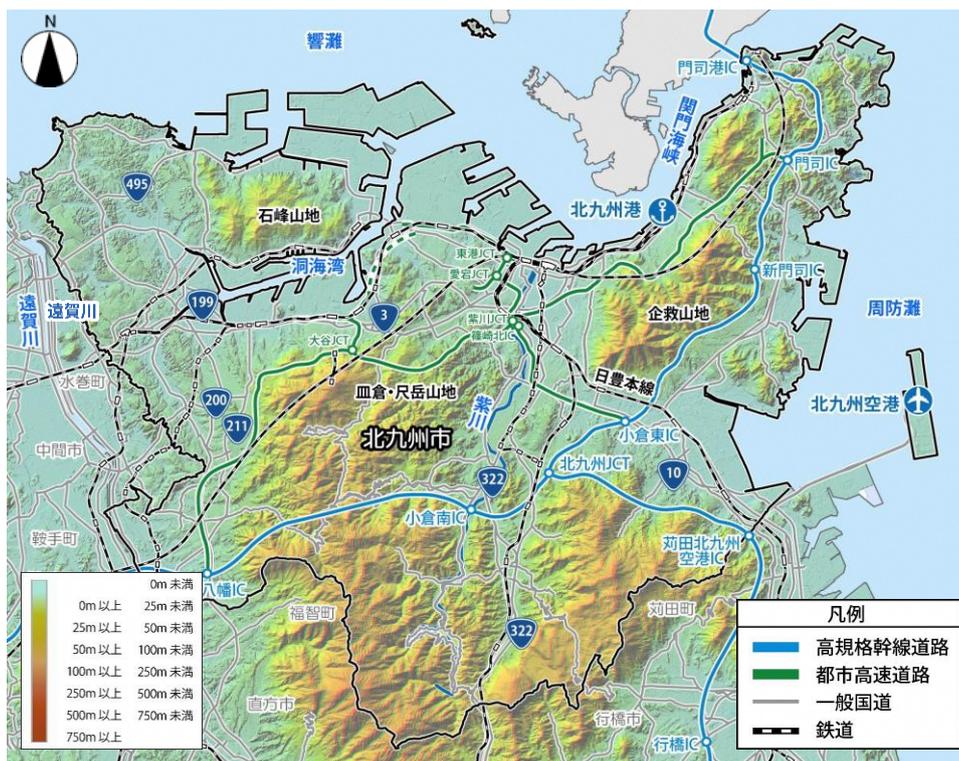


図 北九州市の地形

資料：地理院地図より作成

(2) 人口等

① 人口の推移

本市の人口は、全国や福岡県の平均を上回る速さで減少傾向にあり、平成27年時点で約96万人となっています。今後もこの傾向は続き、令和27年にはさらに約2割減少の見込みです。

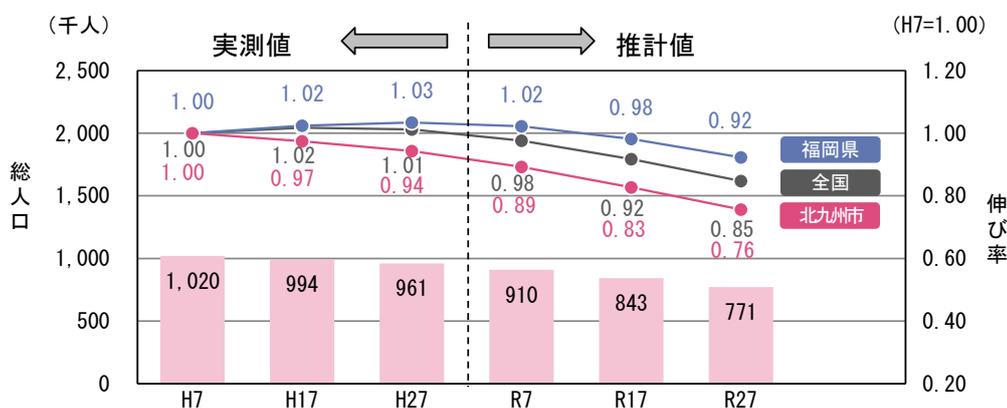


図 北九州市の人口推移

資料：【実測値】国勢調査（H7、H17、H27）、【推計値】国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(H29)」

② 高齢化率の推移

本市の高齢化率(総人口に占める65歳以上の人口の割合)は、全国や福岡県の平均を上回っており、今後もさらに高齢化が進行していく見込みです。

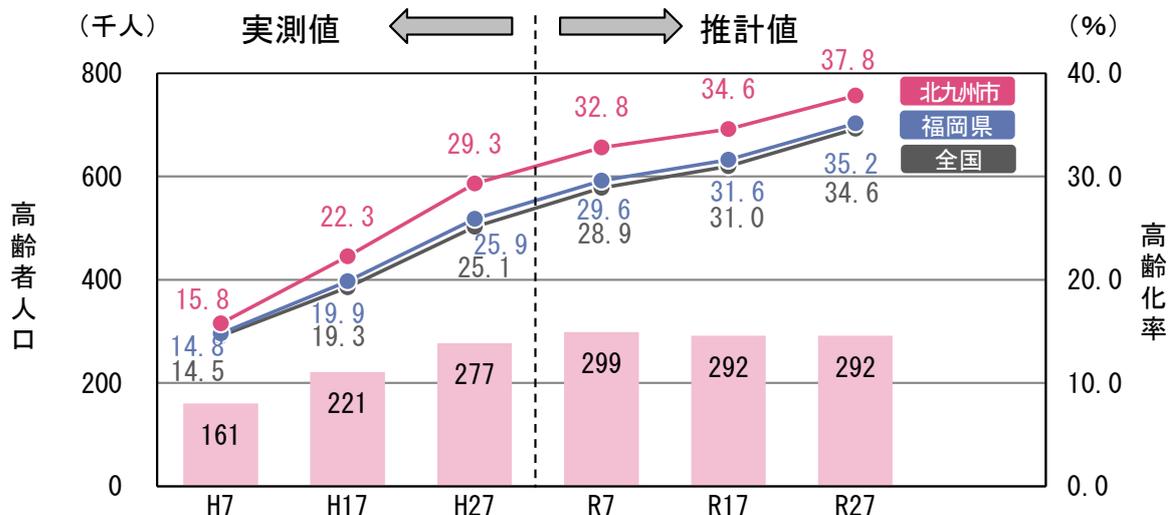


図 北九州市の高齢者人口推移

資料：【実測値】国勢調査（H7、H17、H27）、【推計値】国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(H29)」
※高齢化率の算出には、分母から年齢不詳を除いている。

【課題】人口減少や高齢化の進展に対応したまちづくり

人口減少や高齢化が進行する中において、地域の活力を維持増進し、都市を持続可能なものとするためには、商業・医療・福祉施設や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする市民が公共交通によりこれらの生活利便施設にアクセスできるようなコンパクトなまちづくりを進めていく必要があります。

③ 外国人住民・観光客の推移

本市の外国人住民や外国人観光客は増加傾向にあります。

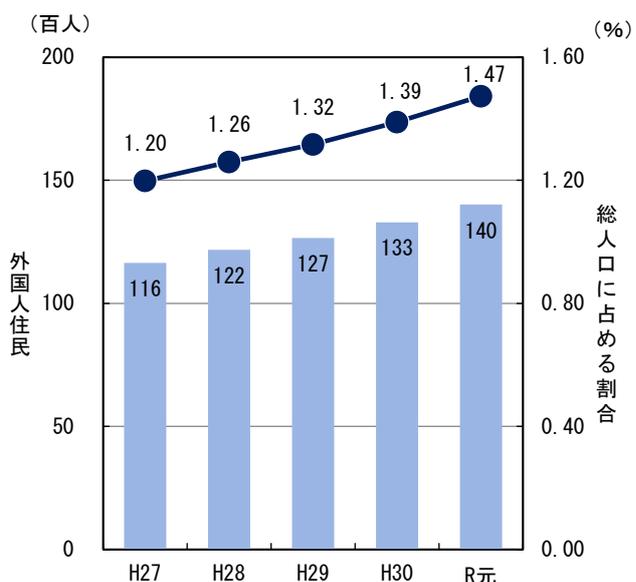


図 北九州市に常住する外国人住民の推移

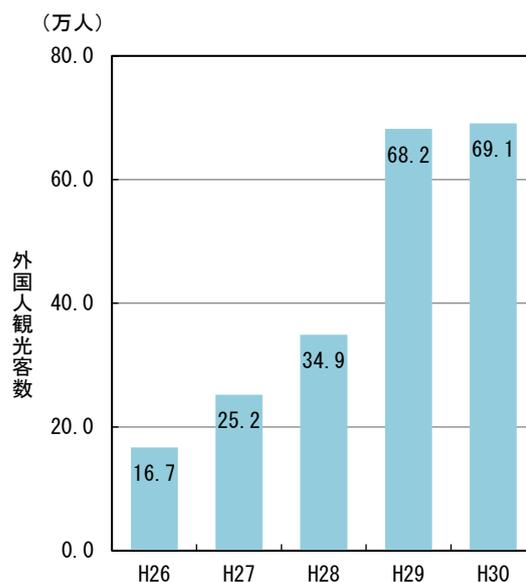


図 北九州市に来訪する外国人観光客数の推移

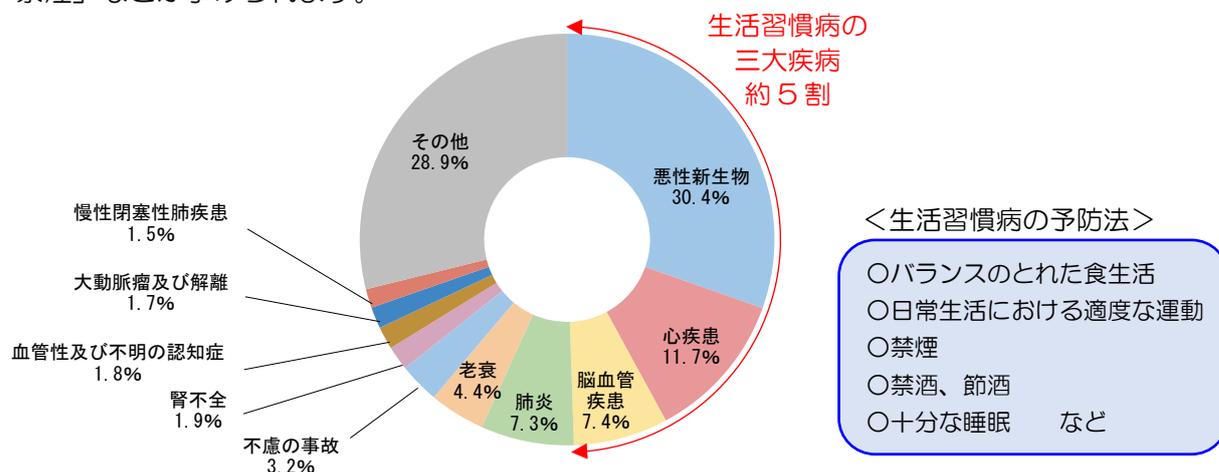
資料：住民基本台帳月報（各年10月末日時点）、北九州市観光動態調査

(3) 市民の健康

① 主要死因

本市の主要死因は、1位が「悪性新生物（がん）」、2位が「心疾患」、3位が「脳血管疾患」となっており、いわゆる生活習慣病の三大疾病が全体の約5割を占めています。

この生活習慣病の予防法としては、「バランスのとれた食生活」、「日常生活における適度な運動」、「禁煙」などが挙げられます。



- ＜生活習慣病の予防法＞
- バランスのとれた食生活
 - 日常生活における適度な運動
 - 禁煙
 - 禁酒、節酒
 - 十分な睡眠 など

図 北九州市における主要死因
資料：北九州市人口動態統計（H29）、厚生労働省「標準的な健診・保健指導プログラム」

② 市民の運動習慣

本市の調査では、市民の約3割が日ごろから運動やスポーツをしていないと回答しています。その理由としては、「仕事・家事が忙しい」が46.0%、「きっかけがない」が32.2%となっています。

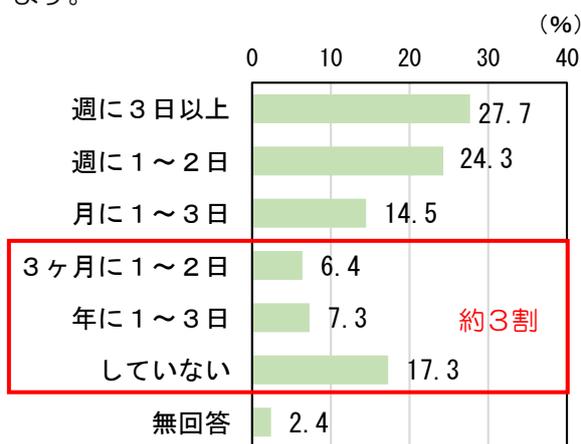


図 1年間に行った運動・スポーツの頻度

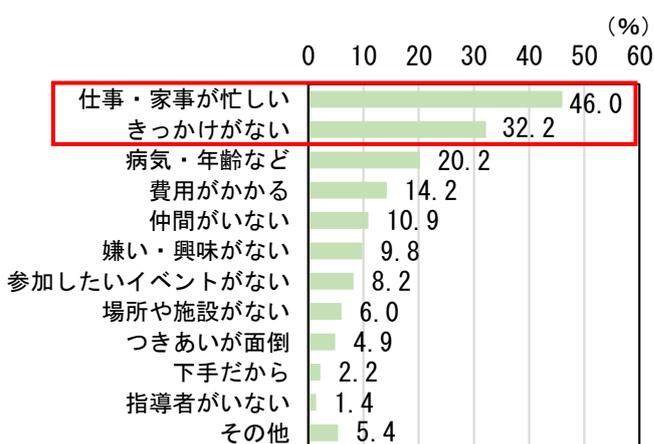


図 運動・スポーツをしない理由（複数回答）

資料：北九州市市民スポーツニーズ調査（H27）

【課題】健康増進に向けた運動習慣の確保

本市では、主要死因の約5割を生活習慣病が占めています。その予防法の一つとして、日常生活における適度な運動が挙げられますが、多忙やきっかけがないなどの理由で、日常的に運動やスポーツを行っていない市民が多くいます。

3.2 交通特性

(1) 交通手段分担率

本市の交通手段分担率における自転車の分担率は約5%となっており、全国平均を下回っています。また、市民アンケート調査では、約8割が自転車を全く利用していません。自転車を月に数日程度以上利用しているとの回答は約2割にとどまっています。

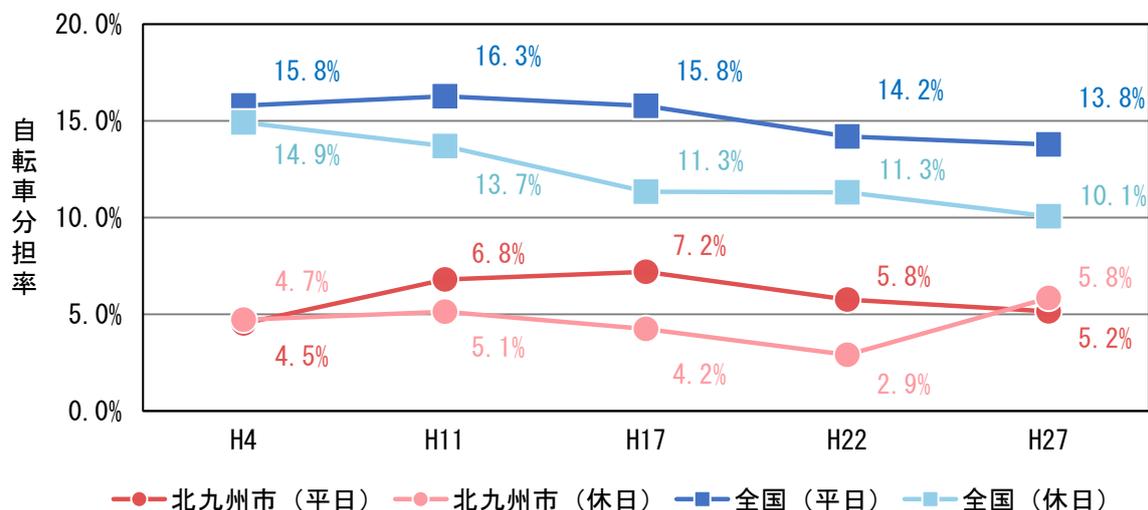


図 自転車分担率の推移

資料：全国都市交通特性調査

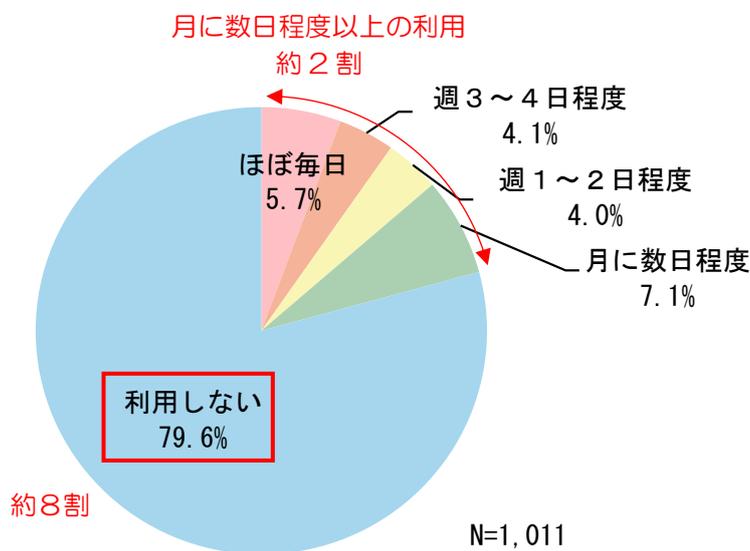


図 自転車の利用頻度

資料：市民アンケート (R2.3)

一方で自動車の分担率は、全体の半分以上（平日約 56%、休日約 70%）を占めており、全国平均を 10%ほど上回っています。

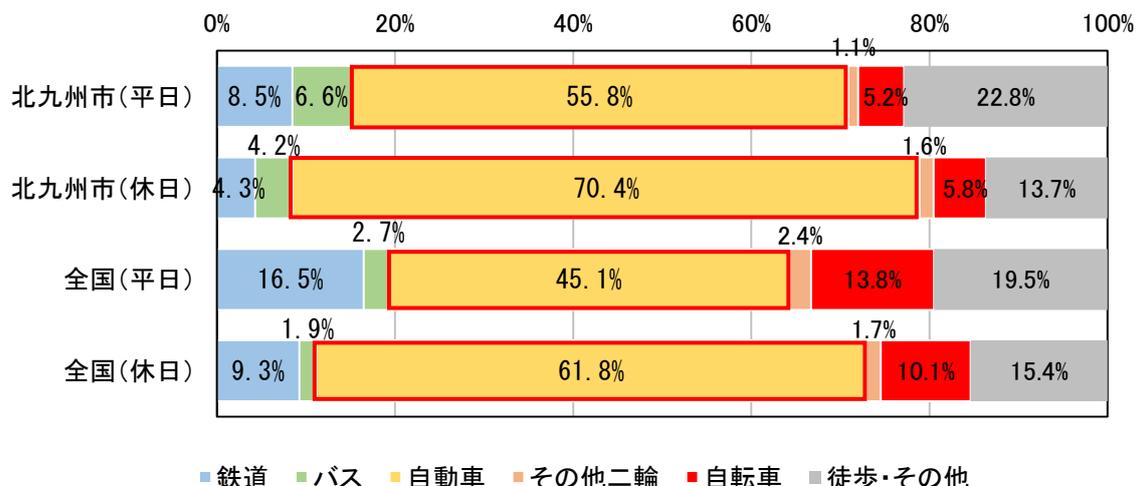


図 代表交通手段分担率の都市別比較

資料：全国都市交通特性調査（H27）

(2) 公共交通の利用状況

本市の公共交通利用者は、平成18年まで減少傾向にありましたが、それ以降は、微増または横ばいの傾向となっています。しかしながら、今後、人口減少や高齢化などの影響により、再び減少に転じる恐れがあります。その場合、減便や路線の廃止などによるサービスの水準低下や公共交通空白地域の拡大が懸念されます。

一方で、自動車の保有台数は、ほぼ一定の割合で増加傾向にあります。

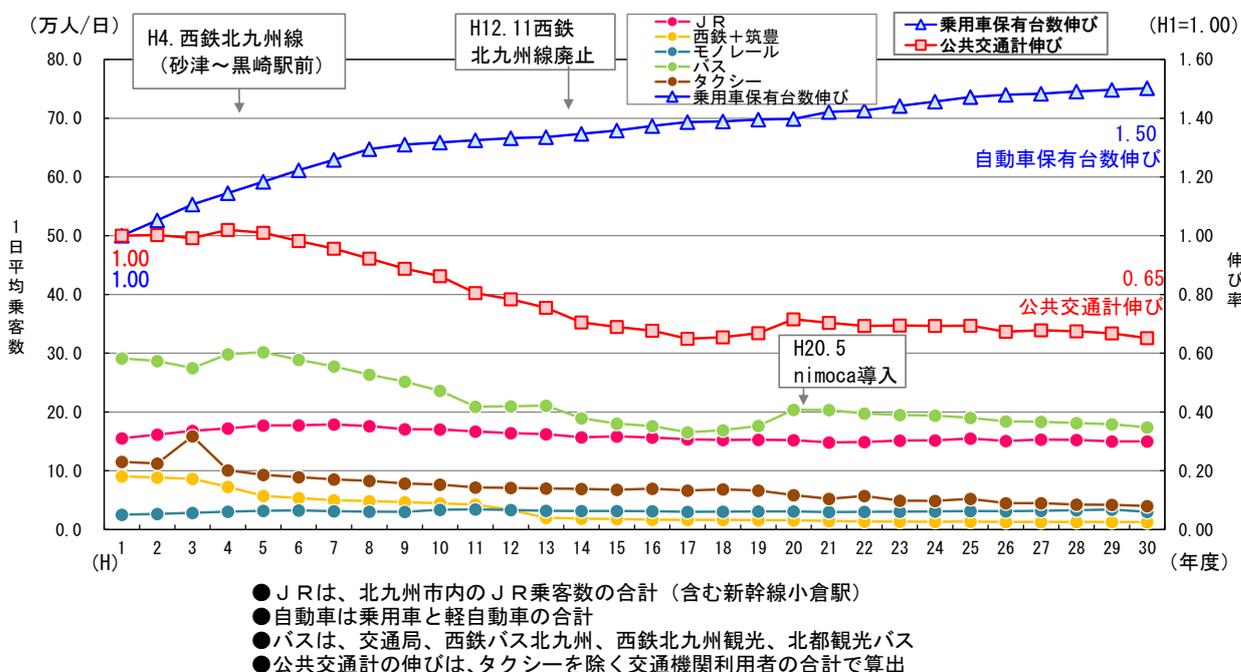


図 公共交通利用者数の推移

資料：北九州市統計年鑑

(3) 運輸部門における CO₂ 排出量

本市では、二酸化炭素排出量の17%を運輸部門が占め、そのうち81%が自動車を発生源としており、近年その減少は横ばいとなっています。

自転車は環境負荷が少なく、身近で健康的な乗り物です。「北九州市環境首都総合交通戦略」においても、公共交通の利用促進に加えて、徒歩・自転車といった地球環境にやさしい移動手段への転換によって自動車利用を減らすことで、地球温暖化問題へ取り組むこととしています。

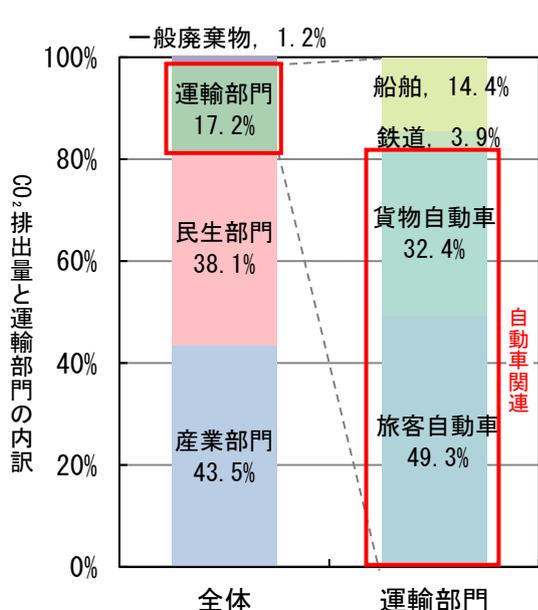


図 北九州市の CO₂ 排出量の内訳

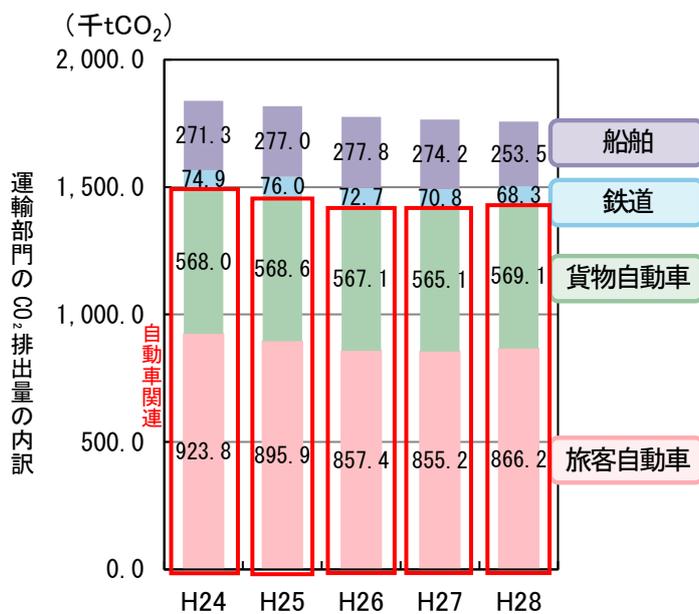


図 北九州市の運輸部門における CO₂ 排出量

資料：環境省_部門別 CO₂ 排出量の現況推計

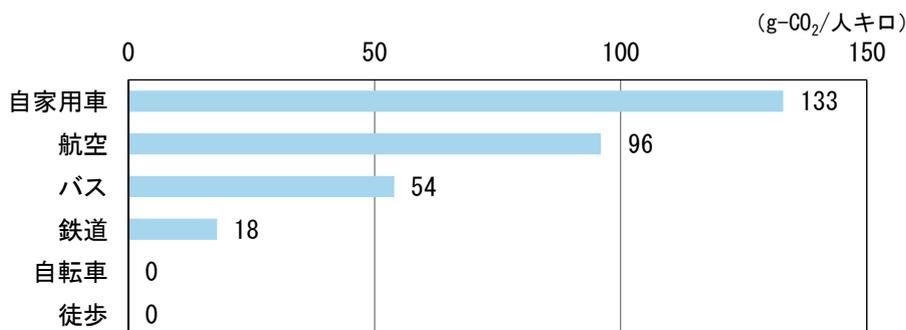


図 1 人を 1 km 運ぶのに排出される CO₂

資料：国土交通省_環境：運輸部門における二酸化炭素排出量 (R2.4)

【課題】 自動車から自転車や公共交通利用への転換

本市では、市民の交通手段として、自動車への依存度が高く、自動車保有台数も増加傾向にあります。

高齢者をはじめとする市民の交通手段として重要な公共交通の維持や温室効果ガスの削減の推進を図るため、過度の自動車利用から地球環境にやさしい自転車や公共交通利用への転換を図る必要があります。